

平成31年度 能美市立寺井小学校 学校評価【最終評価】

重点目標 (めざす姿)	具体的方策	主担当	評価指標	＜評価の根拠＞ 達成度判断基準	取組状況コメント	評価	学校運営協議 会の意見	今後の改善策
1 組織的な 学校運営	①【組織的な学校運営】 教職員が組織の一員として参画し、若手育成とキャリアアップに努め、組織の力が生きる学校づくりを進める。(関わる)	教頭	学年会、校務委員会、校内研修会、ミニ研修会を計画的に実施し若手育成とキャリアアップを図っている。	＜教職員アンケート＞ A: +評価95%～ B: 85%～ C: 75%～ D: 75%未満	100%の教職員が組織的な運営を意識している。主任を中心に組織的、計画的に学校運営を進め、組織力が高まっている。	A	不登校対策については、関連機関や地域と連携し、丁寧に対応するとともに、ゼロを目指してほしい。	児童の実態把握を把握し、課題と成果を検証し、組織的な学校運営を推進し、業務改善にもつなげていく。
	②【いじめ・不登校等の未然防止】 職員全員で児童理解、問題の早期発見に努め、専門スタッフと連携し早期対応を図る。(気づく)	教頭	常に、「気づく」意識をもち、報告・連絡・相談に努めている。	＜教職員アンケート＞ A: +評価95%～ B: 85%～ C: 75%～ D: 75%未満	報告・連絡・相談を密にすることで、諸問題に対して迅速かつ適切な対応ができています。	A		
	③【働き方改革の推進】 ライフワークバランスやタイムマネジメントへの意識を高め、専門スタッフとの協働により業務改善に取り組み時間外勤務縮減を図る。(つながる)	教頭	毎週水曜日の「ライフワークバランスデー」の取組を通して、時間外勤務時間が月80時間を超える教職員ゼロをめざす。	＜勤務時間集計＞ A: ゼロ B: 1～2人 C: 3～4人 D: 5人以上	業務の重点化や効率化を図り、業務改善と意識改革がすすみ、時間外勤務時間を縮小を図ることができた。	C		
2 知（ラ ストま でが んば る子）	①【主体的対話的な深い学び】 算数科を中心とした授業研究の中で、主体的対話的な深い学びをめざし、教師の授業力向上をすすめる。	研究	寺井小授業スタイルの実践を自分の授業に取り入れ、特に学び合いの場面でふりかえりの充実を図る。	＜児童ふりかえりアンケート＞ A: +評価90%～ B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満	児童に向けた「モデル授業」や他クラスとの「授業交流」などを行い、教師と児童が共に高い目標を持って授業づくりを進めることができた。また、様々な講師を招聘して教師間での授業力向上に向けた学び合いができた。	B	新教育課程の実施にあたり、教職員の授業力向上や授業改善を図りながら、学力の向上を進めていく。	
	②【基礎基本の確実な定着】 はぐれタイム等を充実させ基礎基本の定着を図る。	主幹	学期末の漢字・計算テストで、クラス平均90点以上を目標に取り組む。(漢字まともテストは練習なしの点数)	＜期末漢字計算テスト＞ A: 90点～ B: 80点～ C: 70点～ D: 70点未満	2学期末テストにおいて漢字90.4点 計算88.5点であった。基礎基本が定着されるように個別指導にも力を入れている。	B		
	③【家庭学習の習慣化】 学習の手引等で家庭と連携し、家庭学習の習慣化と内容の充実を図る。	主幹	自学ノート学年目標冊数を達成する。前(34年1冊、56年2冊)後(1年1冊、2年2冊、34年3冊、56年4冊)	＜自学ノート達成率＞ A: 90%～ B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満	家庭と連携し、学習環境を整え家庭学習の習慣化を進めている。多くの児童が目標を達成し、意欲的に取り組んだ。	A		
	④【読書活動の推進】 学校や家庭での読書を積極的に勧め、個人の読書力を高める。	図書	年間の標準読書冊数(低: 60、中: 50、高40冊)を達成する。	＜標準読書冊数達成率＞ A: 90%～ B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満	図書館閉館期間があり、達成率は80%であったが、読書タイムの確保や図書貸出を奨励しながら読書活動を進めてきた。	B		
3 徳（手 をつ なぎ 助け 合う 子）	①【生徒指導の3機能】 全職員で全児童を育てるという意識の下、生徒指導の3機能を生かした積極的な指導を行う。	生徒指導	いじめがなく安心安全な学校生活を送り、「学校生活は楽しい」と感じている児童を増やしていく。	＜児童アンケート＞ A: +評価90%～ B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満	児童会主催の取り組みが功を奏した。自己肯定感があがるよう、児童が相互評価をし、友だちに良い所を伝える取り組みなどを全校で定期的に行えた。	A	学校・家庭・地域の連携した地域生活を生かし、いじめのない安心安全な学校作りを一層進めていく。	
	②【張りのあるあいさつ】 学校・家庭・地域が連携し、明るく張りのあるあいさつができ、自他を大切に児童の育成を図る。	生徒指導	学校・家庭・地域において普段から挨拶をし、自他を大切にすることを児童の育成を図る。	＜児・保・教アンケート＞ A: +評価90%～ B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満	挨拶運動や集会での挨拶の取り組みが功を奏した。年間計画を立てて地域保護者とも連携しながら、一貫した取り組みを推進した。	A		
	③【道徳教育の充実】 道徳の時間を充実させ、全教育活動を通して、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。	道徳推進	道徳の授業を年間1回以上、保護者や地域の方に公開する。	＜道徳授業の公開＞ A: 全学級 B: ～18学級 C: ～15学級 D: 15学級未満	全学級で授業参観で道徳の授業を公開することができた。また、教育活動の中でも、道徳性を育む活動を充実させてきた。	A		
4 体（命 を大 切に する 子）	①【体力の向上】 各種検定や体カテスト等を活用し、児童の運動への意欲を高め、児童の体力向上を図る。	保健主事	各種検定やスポチャレ等の取り組みにおいて、段階的な指導を行い、児童の伸びを自覚させ、意欲づけにつなげる。	＜児童アンケート＞ A: +評価70%～ B: 60%～ C: 55%～ D: 50%未満	児童アンケートにおいて「運動が楽しい」と88%の児童が答えており、段階的な指導と伸びを自覚させる取り組みが児童の意欲をもたせることにつながった。	A	児童の健全な心身の成長のために、体力向上につなげる指導を工夫するとともに、生活習慣の改善に向け、家庭との連携も大切にしている。	
	②【健康な体づくり】 家庭と協力し、むし歯治療率の向上を図り、健康な体づくりへの意識を高める。	保健主事	むし歯治療率を元に、保護者の健康な体づくりの意識を高める。	＜むし歯治療率＞ A: 85%～ B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満	個人懇談等で保護者に、細やかな声かけで児童にも治療の必要性を伝え、1月末で81.3%。	B		
5 家庭・ 地域 との 連携 協働	①【基本的な生活習慣の確立】 TVやゲームの時間を減らし、早く寝て規則正しい生活する児童の育成を図る。	生徒指導	家庭でのテレビやゲームの時間を以前より減らし早く寝るなど規則正しい生活ができている。	＜児・保アンケート＞ A: +評価90%～ B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満	保護者への啓発活動によりネット・ゲームへの意識が高まり、家庭との課題の共有がすすんでいる。	B	学校や児童の様子が分かるように、今後も継続して学校便りやHPで伝えてほしい。	地域(学校運営協議会)、保護者と一層連携し、教育活動を充実させていく。
	②【開かれた学校づくり】 学校運営協議会と連携しながら、学校教育活動を家庭や地域に積極的に公開し、開かれた学校づくりに努める。	教頭	学校だよりやホームページなどで、教育方針や教育活動を積極的に保護者に伝えている。	＜保・教アンケート＞ A: +評価90%～ B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満	学校だより、HP等で教育活動の様子を伝えるとともに、学校運営協議会と連携し教育活動を充実させた。	A		